



LAS VEGAS

海外MICE Report

世界を代表するMICEビジネス都市、ラスベガス

アメリカ・ネバダ州のラスベガスは、展示会場や会議場などのコンベンション施設の総床面積 100 万㎡以上を有し年間 2 万 2,000 件もの会議、コンベンション、展示会が開催される世界有数の MICE ビジネスの街であるとともに、さまざまなショーをはじめとしたエンターテインメントやカジノ、世界中のグルメ、ショッピングモールなどをホテルに兼ね備えた巨大な複合施設が集まる世界最大級のエンターテインメント都市でもある。ビジネス客だけでなく総合エンターテインメントを強みにレジャー客の誘致にも成功し、昨年は 4,290 万人もの人が訪れた。世界を代表する MICE ビジネス都市であり、国際観光都市として今なお進化を続けるラスベガスの魅力に迫る。





ギャンブルのイメージから脱却、ハイエンドでユニークな施設が集結する国際 MICE 都市へ

東京からロサンゼルス経由で10数時間、サンサンと太陽の降り注ぐラスベガス空港に到着すると、到着ロビーでまず目に飛び込んできたのがスロットマシンだ。さすが、かつては「カジノの街」として世界中に名をはせたラスベガスである。だが空港から車で10分ほど走るとそこはもう中心地の「ストリップ」で、今度は巨大なテーマパークのような統合型リゾート施設群が現れる。エジプト、ニューヨーク、ベネチアなど世界中の国々をテーマにしたものから洗練されたスマートなデザインの施設までさまざま、通りを走っていると街全体が巨大なテーマパークのようで、各施設は一つのアトラクションだという感覚に陥る。

各施設は広大な敷地面積を有し、宿泊施設に加えてカジノフロアがあり、有名なシェフのレストランやブランドショップなどのテナントが多数入ったショッピングモールを形成しているほか、シルク・ドゥ・ソレイユや世界的に有名なミュージシャンなどのショー施設も常設。さらには展示会場やさまざまな会議室も併設されていることから、巨大なコンベンション施設としても機能している。

ラスベガス全体の総客室数は約15万室、大規模な国際的な展示会の開催されるラスベガスコンベンションセンターのほか、統合型リゾート施設に併設する展示会場や会議室を合わせたMICE施設の総床面積は100万㎡にも上る。米国のトレード・ショー・ニュース・ネットワークのランキングでは、大規模展示会の開催地として全米第一位に23年連続選ばれ、昨年は2万2,000件の会議・コンベンション・展示会が開催され、その参加者数は630万人以上と前年比7.1%の増加となった。

十分なMICE施設と宿泊施設、そしてここでしか体験できないさまざまなエンターテインメントのほかにラスベガスの魅力は、コンパクトな街のつくりとアクセスの良さが挙げられる。空港から中心地まで10分程度で、全ての施設が集まっていることから移動面でのストレスがなく、また雄大な景観が広がるグランドキャニオンも、ヘリコプターツアーなどを利用すれば半日で体験が可能だ。

コンベンションを利用するビジネス客にとって、客室から会場まではもちろんのこと、さまざまな趣向を凝らしたレストランやバー、ショー、アクティビティも一つの施設内にあるため徒歩で移動が可能で、隣の施設へ行けばまた違った体験ができるのも、ラスベガスがMICE開催地として選択される強みの一つであろう。



シルク・ドゥ・ソレイユ「KA」大規模な舞台装置と見事な空中技のアクロバットショー ©Courtesy of Cirque du Soleil



グランドキャニオンへのヘリコプターツアー ラスベガスグランドキャニオンツアー <http://www.papillon.com/las-vegas-tours/>

統合型リゾート(IR)施設

昨年12月に日本でもIR法案が成立し、現在、施行に向けた法整備が行われているが、ラスベガスではこの統合型リゾート(IR)施設を世界に先駆けて確立し、MICE客の誘致に成功、世界有数のMICE開催都市となった。

IR施設は、従来型の客室と飲食店にスパやプール、バンケットルーム、小型の会議室などのホテル施設に、カジノ、大型のMICE施設、エンターテインメント施設、ショッピングモール、さらにゴルフ場や博物館などが統合した施設で、それぞれの要素による相乗効果でより大きな集客や収益を生み出すことが可能。ラスベガスに続いてシンガポールやマカオなどでも大型のIR施設が展開されており、その経済効果の大きさから世界各国がIR施設の誘致に注力している。「カジノ」の側面が強調さ

れがちだが、ラスベガスの場合、現在はカジノによる収益は全体の40%程度であり、60%は客室やエンターテインメント、飲食、その他からの収益である。一方、シンガポールやマカオなどは70%がゲーミングによる収益だといえる。とはいえ、ラスベガスでは投資に対する収益の高いカジノがあるからこそ、他の施設への思い切った投資が可能となっているようだ。

ラスベガスには中心のストリップ周辺に約40の巨大なIR施設がある。施設ごとにテーマを大切にしながら特徴を持ち、コンベンション施設以外のプールサイドや個性的なレストラン・バーでのパーティなど、「ここでしかできない」プランを提案することでほかの施設との差別化を図っている。

ラスベガスを代表する2つのIR施設を以下に紹介する。

Mandalay Bay

MGM Resorts International

MGMリゾート・インターナショナルは、統合型リゾートの開発から運営まで手掛けるグローバルカンパニー。ラスベガスにはベラージオ、MGMグランド、ニューヨーク・ニューヨーク、マンダレイベイなどのIR施設を展開するほか、ラスベガスで最大のアリーナ施設T-Mobile-Arenaなどを有する。

マンダレイベイには北米で5番目の大きさのコンベンションセンター(2016年1月には約3万2,500㎡の新展示場をオープン、展示場や会議室の全体の規模は19万5,000㎡、3万人のコンベンションに対応)を有し、コンサートやスポーツ、会議など多目的に使用できる1万2,000席のイベントセンターや1,800人規模のコンサートホール、水族館、1万2,500㎡以上のゲーミングスペースなどを兼ね備える。1999年に開業し、客室は436室のスイートを含め3,211室。隣接して2014年には1,117室全てスイートルームのDelano Las Vegasがオープンし、Four Seasons Hotelが有する424室を合わせると、施設内の総客室数は4,752室。

MGM Resorts InternationalのMICHAEL DOMINGUEZ氏(CHIEF SALES OFFICER)は日本のIR法案成立に向けた動きの中で数回来日しており「日本市場は非常に魅力的であり、高いポテンシャルを秘めている。参入に向けMGMグループの日本法人を設立し、現在パートナー企業を探している」と、日本市場参入への高い意気込みを示した。



©MGM Resorts International

ラスベガスの中でも特にハイエンドクラスの施設で、2005年にオープン。隣接するアンコールは2008年オープンで、客室はウィングが最高級タイプのヴィラなどを含め2,761室、アンコールが2,082室で、総客室数は4,843室。常設のアクロバットショー施設では「Le Reve」が開催されるほか、1万㎡以上のゲーミングスペースやラスベガスのIR施設で唯一の18ホールの本格的なゴルフコース、高級スパ施設を有

し、人口湖と滝では夕方から無料のショーが体験できる。

コンベンションスペースは合計2万7,000㎡で、ゴルフ場またはプールサイドに面しており、3つの豪華なボールルームや39の会議室を有する。高速インターネットサービスなどの設備面はもちろんのこと、施設内には世界中の骨董や絵画などが展示されており、会議などの参加者をよりもてなす工夫が随所になされているのも特徴。

現在、マカオにも展開しており、2019年にはボストンに開業予定。ゴルフ場をレクリエーションレイクに改築し、さらに新しいブランドの施設を建設する計画もあるという。

Wynn Resorts LimitedのBRIAN R.GULLBRANTS氏(Executive Vice President General Manager)は「日本人が求めているハイクオリティで本物を提供することが出来るリゾートがウィンであり、それを強みに日本でも展開していきたい」と、日本市場への積極的な姿勢を示した。



©Wynn Las Vegas

Wynn Las VEGAS

Wynn Resorts Limited

MICE施設

MICE ビジネス都市として必要不可欠な大規模 MICE 施設。ラスベガスはコンベンション施設もさることながら、MICE ニーズに対応するアリーナやショー施設なども充実。

ラスベガス コンベンション センター

ラスベガスコンベンションセンター（運営：ラスベガス観光局）は、1959年に開業した約18万5,000㎡の展示面積を持つ北米3位の規模の展示会場で、20人から2,500人まで収容可能な145の会議室を有し、国際的な大規模な展示会が数多く開催されている。

改修を重ね現在の規模になったが、稼働率が高くよりニーズに対応するため、駐車場スペースに新ホールを建設する計画があり、2020年後半にオープンを目指す。

規模の大きさに加え、中心のストリップから車で約5分、さらにモノレールの駅の目の前に位置しているため、アクセスの良さが抜群だ。



©Las Vegas News Bureau

T-Mobile アリーナ



昨年4月に、ラスベガス最大の2万人規模の多目的アリーナ施設「T-Mobile Arena」（運営：AEG、MGM社）がオープンした。1万7,000人規模のMGM グランド・ガーデン・アリーナがあるものの、より大きい規模のアリーナ施設が求められていたことからMGM社が設立。今年はラスベガスのアイスホッケーチームのホームアリーナとなり、そのほかバスケットボールやボクシングなどのスポーツイベントを中心にコンサートや企業イベントなどにも対応する。

スポーツ観戦もエンターテインメントのひとつであることから、ゆったりとした造りの座席を採用し、アリーナ席にはVIPルームやスイートルームを設置。アリーナを見渡せる広いバーラウンジのほか、メインコンコースなどいくつかのバーラウンジも設けられている。

またMGM社は、T-Mobileアリーナに隣接する約1万2,000㎡の屋外スペースに屋外のMICEニーズにも対応する「THE PARK」を同時期にオープン。公園全体は砂漠の景観をイメージした作りとなっており、雰囲気のよい飲食店が軒を連ね、アコースティックギターなどのライブエンターテインメントのプログラムもある。

ユニークベニュー

ラスベガスでは各IR施設に趣向を凝らした会場があるが、それ以外にもレセプション、パーティ会場として使用できるユニークな会場がある。その一部を紹介する。

Keep Memory Alive Event Center

世界的に有名な建築家であるフランク・ゲーリーによる、特徴的な外観のイベントスペース。着席で450人、スタンディングで700人まで対応。隣接する脳疾患に関する研究所を兼ねているクリニック Cleveland Clinic Lou Ruvo Centerの運営のために設立されたイベントスペースで、会場利用料は経費を除いてすべてクリニックの運営費に寄附される。

©Keep Memory Alive Event Center



ダウンタウン地区にある「The Mob Museum」は、ラスベガスのマフィアなどの組織犯罪に関する歴史が展示されているユニークな博物館。かつて郵便局として使用されていた建物が使われており、展示は写真やシアター映像が多く分かりやすい。ユニークベニュー会場として全館貸し切ることや（最大600人）、また映写室のみの貸し切り（着席160人）も可能。

The Mob Museum



©The Mob Museum

High Roller at LINQ Promenade

「The LINQ Promenade」にある「ハイローラー」は、40人収容可能な大型観覧車で、1周約30分かけてまわるキャビンからはストリップが見渡せる。貸し切りにしてバーカウンターを設置することも可能で、小型のパーティやミーティングにも対応するユニークベニュー。



Other Contents

●博物館 [Neon Museum]

ナイトコンテンツの充実しているラスベガスでは、街中がネオンサインで光り輝く。現在は表示が変えられるデジタルサイネージがメインになりつつあるが、かつては個性的なネオンサインがその施設の顔として街中に存在していた。そんな役目を終えた、有名なネオンサインが一堂に集められ、展示されている。見学はツアー形式となっており、ラスベガスの歴史をネオンサインでたどることができる。



●レストラン・バー

ラスベガスは世界屈指のグルメ都市でもある。一流シェフが集結し、世界中の料理が味わえるほか、個性的かつ雰囲気大切にそれぞれのレストランやバーの空間で非日常感を楽しめる。

おしゃれで一風変わった創作日本料理のMorimoto (GMG Grand内) や Zuma (Cosmopolitan内)、イタリア料理のOTTO Enoteca e Pizzeria (Venetian内)、ワインに合わせた創作料理 Aureole (Mandalay Bay内)、人造湖と滝のショーを眺めながら新鮮なシーフードを楽しめる Lakeside (Wynn Las Vegas内)、シャンデリアがきらめく空間 Chandelier Bar (Cosmopolitan内)、ラスベガスの夜景を一望できる Skyfall Lounge (Delano Las Vegas) など、プレ・ポストコンベンションにも最適なシーンを提供する。



Morimoto



OTTO Enoteca e Pizzeria